

平成 27 年度 酒田市子ども・子育て会議「医療連携に関する勉強会」報告

日時：2015 年 11 月 19 日（木）10:00～11:30

場所：酒田市健康センター 会議室

出席者：酒田市子ども・子育て会議 大滝委員、武田委員

酒田市子育て支援課長、福祉課長、健康課長、学校教育課指導係指導主事

酒田市子育て支援課職員（須藤、元木）

○発達に課題のある子ども、気になる子どもの就学についての現状と課題の共有

<各課、委員からの報告>

○意見交換（主な内容）

- ・健康課では保健師による全新生児の家庭訪問を行っている。その上で、3 か月、1 歳 6 か月、3 歳児の健診を行っているが、現状としては出生前のかかわりが少ない。今後、3 か月健診までのかかわりにおいて新たな事業を行えないか検討をしている。
- ・福祉課では平成 23 年から発達支援室を開設し、「育ちのサポート事業」等において相談を受け付けており、保護者の同意を得ながら小学校への引継ぎを行っている。相談者は年々増加しており、幼稚園や保育園の先生方のレベルアップや、保護者の障がい、社会福祉や特別支援教育に対する理解の促進が必要とされている。
- ・学校教育課では児童訪問や保護者面談、就学時健診、個別支援計画と個別指導計画の策定・実施、就学児委員会の運営などにより子どもの支援に取り組んでいる。保護者及び保健師等の専門職者との連携において課題もある。
- ・教育における対応を含めて、子どもの育ちのためには早期発見と早期介入が求められる。早期発見と早期介入のためにはどこかが中心になり取り組まなければならない。家庭環境の把握、理解が必要な場合もある。
- ・子どもの発達の支援のためには、誕生から就学までの行政内の部署や支援者同士のつながり、結びつきが必要である。必要な場合にシステムとして情報共有ができないか、検討が求められる。
- ・子どもの発達の支援のために現状でもたくさんの取り組みがあることが確認できた。それらをさらにつないでいくことが必要ではないか。横のつながりがないとせっかく取り組んでいることも効果や意義が半減してしまうのではないか。

以上